

小4 社会

昔の人の暮らしの工夫について探ろう～牧畑編～

8 単位時間 + 移動 365 通年 4~5 人 グループ 晴～曇

概要

島前の牧畑に関する遺構を現地見学して、経緯などについて調べ、地域の発展に尽くした先人の知恵や工夫について理解する。

ねらい

■地域の発展に尽くした先人の知恵や工夫について理解する。

準備物

教師

- ・模造紙または画用紙（まとめに使用）
- ・補助教材①(牧畑写真) ・補助教材②(牧畑ゲーム) 5セット

児童

- ・筆記用具 ・色鉛筆
- ・クリップボード（画板）

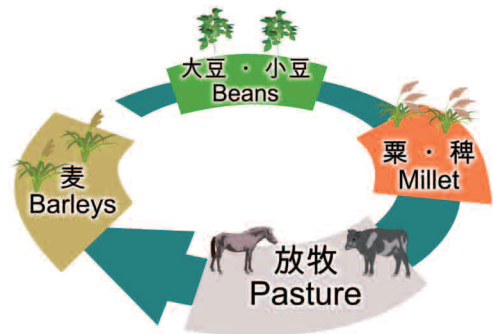
※外部講師を依頼する場合、「はじめに」の「4 実施に当たっての注意事項」参照

基礎知識

ポイント1

隠岐の伝統的農法に関わる産業遺構

- ・牧畑とは、山を柵や石垣で区切り、牛の放牧、大豆、稗・粟、麦を効率よく輪転する（くるくる回す）農法。
- ・先人たちの知恵により生み出され、地力の乏しい地質でも持続可能。
- ・島前、島後ともに行われていた。特に島前では広範囲で展開。
- ・境界の石垣は西ノ島で「間垣（アイガキ）」や知夫村で「名垣（ミョウガキ）」と呼ばれた。間垣は牧の間にあるため。名垣は、昔隠岐には地名を土地所有者の名で「○○名（みょう）」と呼ぶ風習から。



赤ハゲ山（知夫村）の牧畑用石垣と現在

- ・輪転式牧畑の石垣が約 2 km 続く島独特の風景。
- ・島を 4 つの地区（牧）に分けて効率的に放牧と耕作を繰り返した。
- ・現在は放牧地となり、5 月には一面に野ダイコンの花が咲く

鬼舞（西ノ島町）牧畑用石垣と現在

- ・中世以前より続く輪転式牧畑のために築かれた石垣で、現在では放牧場の中に残っている。

ポイント2

牧畑農法の特徴

- ・隠岐の地質は火山性の岩石で、土壌には麦や粟・稗などの連作に耐えられる地力がない。
- ・麦や粟・稗の耕作のため、牛馬の糞の堆肥や豆類の栽培等により定期的に地力を回復させる必要があった。これが四圃式（よんぼしき）牧畑農法の確立につながった。
- ・離島では耕作できる土地は貴重で財産価値が高いが、地域の共存共栄のため個人の土地でも共有財として扱っており人文学的にも牧畑は学術的価値が高い。
- ・農耕は重労働で、牛馬の使用は欠かせなかった。
- ・隠岐は多孔質の地質で、山頂近くでもいたるところに湧水があったことが牛馬の使用や耕作に好条件だった。
- ・牧畑では耕作の順序や共有化などのルール、石垣の設置や修理の共同実施といった共に生きる社会システムがつけられ、長年の間実行されてきた。

小4 社会 (5) 地域の人々の生活の移り変わり ウ. 地域の発展に尽くした先人の具体的事例

関連する基本シート

- ・ 隠岐の歴史・文化～牧畑～
- ・ 国立公園について
- ・ ジオパークについて

進め方 ※8 単位時間のプログラムのため、3 回に分けて実施すると取り組みやすい

事前学習 (90 分)

国立公園およびジオパークの紹介 (任意、5 分)

偉大な先人の知恵 (30 分)

補助教材①



- ・ 教科書に沿って、農業や土木技術などに関する先人の知恵を紹介
- ・ 牧畑写真 (補助教材①) で牧畑農法を説明

牧畑の仕組みを知る (40 分)

補助教材②



活動

- ・ グループに分かれて、牧畑のカードゲームを行う

※確認※

- ・ ヒエ・アワの説明 → 補助教材①
- ・ マメ科植物が地力を回復させる理由の説明 → 補助教材①



理解

- ・ 持続的に食糧を得るためには、放牧と耕作をくり返す必要があった。また、その順番もある程度決まっていた。
- ・ 牧畑を行うためには、牧を区切る石垣が必要

牧畑について知りたいこと、現地で質問したいことを考える (20 分)

ワークシート配布



活動

- ・ 現地で外部講師に質問したいことを考える

※外部講師への質問例※

- 「どうしてこんな山の上に畑を作ったの?」 「畑では何を作ったの?」
- 「仕事は大変だった?」 「牛や馬の飲み水はどうしていた?」
- 「石垣は何のため?」 「なぜ、4つのサイクルで農業を行った?」
- 「どうやって石垣を作った?」 「現在、石垣は必要か?」
- 「どうしてこの石垣を守っているの?」
- 「放牧地にある植物の特徴と昔の人の暮らしとの関わりについて」
- 「土地の成り立ちについて」など

メモ (当日の時間等)

トイレ休憩 分

移動時間 分

現地学習 (60 分程度)

昔の人の暮らしの工夫を見学 (30 分)

ワークシート1枚目



活動

- ・ 外部講師の話を記録
- ・ 考えた質問をして回答を得る

※教師は現地の様子を撮影しておき、まとめの際の資料として活用する

草原の植物と人の暮らしや大地の成り立ちについて (20 分)



(外部講師)

- ・ 植物が食料や薬などとして使われていた
- ・ 島前は火山噴火によってでき、厳しい気象条件により土地がやせている
- ・ 島前は淡水レンズ現象で湧水がある



理解

- ・ 草原の植物と人の暮らしはつながっている
- ・ 牧畑は隠岐の自然環境に合わせた農法である

トイレ休憩 分

移動時間 分

振り返り (10 分)

ワークシート2枚目



理解

- ・ 痩せた土地で生きていくために、耕作と放牧を繰り返す知恵が生まれた
- ・ 牧畑を維持していくには大変な労力がかかった
- ・ 石垣は、住民によって維持管理され、現在も使われている

小4 社会 (5) 地域の人々の生活の移り変わり ウ. 地域の発展に尽くした先人の具体的事例  
事後学習 (210 分)

メモ (当日の時間等)

昔の人の暮らしの工夫について分かったことを話し合う (180 分)



活動

- ・ 牧畑や先人たちの暮らしの工夫、牧畑があることで人々の暮らしがどのように変わったか、分かったことを模造紙又は画用紙にまとめる
- ・ グループまたは個人が発表する

まとめ (30 分)



理解

- ・ 地域の先人たちは、地域の環境に応じた暮らしの工夫をしてきた

※導きかた※

- ① 畑を維持管理するためには多大な労力が必要であり、昔の人々はすごいなという感想
- ② 石垣は過去の遺物ではなく、現在も地域の人々に管理されながら放牧に使われている
- ③ それを守っていく必要があること

発展・応用

- ・ 見学した以外の隠岐の昔の人の暮らしの工夫について調べて、どのような工夫かまとめる
- ・ 以前は隠岐4島で行われていた牧畑が島前で牧畑が残り、島後ではなくなってしまった理由について考察する (島後は平地が多いため水田が発達し、西ノ島・知夫では平地が少ないため牧畑に依存せざるをえなかった。地形と人々のくらしとの関係性が考察できる)



むかし く くふう さく まきはた へん  
昔の人の暮らしの工夫について探ろう～牧畑編～

なまえ

しら 調べた日 ひ

年 月 日 ( )

しら 調べた場所 ばしよ

むかし  
🔍 昔の人の暮らしのくふうを見学しよう



いしがき  
✎ 石垣の先生の名前

さん

いしがき さく  
✎ 石垣 (石でできた柵) の先生にきいてみましょう

しつもん①

こたえ①

しつもん②

こたえ②

しつもん③

こたえ③

しつもん いがい  
✎ 質問したこと以外で、気づいたこと、わかったことをメモしましょう

なまえ

## 🔍 今日わかったこと

✎ 昔むかしの人のすざいところはどこでしょう

✎ 今は石垣いしがきを島しまの人がどのように使つかっているのでしょうか

✎ 今日気づいたこと・わかったこと